

# VLED 第3回技術委員会

## 議事録

1. 日 時 平成27年3月3日(火) 10:00~12:00
2. 場 所 三菱総合研究所 4F 大会議室 D
3. 出席者 主 査：越塚登（東京大学大学院情報学環 教授）  
副主査：武田英明（国立情報学研究所 教授）  
委 員：平本健二（経済産業省 CIO 補佐官）、深見嘉明（慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員(訪問)）  
社 員：KDDI、日本アイ・ビー・エム、日本電気、日本電信電話、日本マイクロソフト、日立製作所、富士通、三菱総合研究所（事務局）  
オブザーバー：総務省、内閣官房 IT 総合戦略室、国土地理院、国立国会図書館  
事務局：三菱総合研究所、YRP ユビキタスネットワークング研究所
4. 配布資料 資料3-1 評価版ツールの状況報告  
資料3-2 次年度テーマの検討  
資料3-3 第2回技術委員会議事録
5. 議題
  1. 評価版ツールの状況報告
  2. 次年度テーマの検討
  3. 意見交換
6. 決定事項
  - メタデータ抽出ツールの入出力ファイルとして csv 形式への対応を検討する。
  - 5つの実施項目について、スケジュール、マイルストーンを含めたアクションリストを詰めていく。
  - 国際標準化活動に向けた来年度のアクションとして、社員企業の標準化関連活動の棚卸しなどを含めて検討していく（アクションリストに含めるようにする）。
7. 議事録
  - (1) 評価版ツールの状況報告
    - 資料3-1の説明。
    - 指針8の文字コードのチェックはどこまで行うことを想定しているのか。
      - 一般的に使われている範囲で確認している。外字については対象としていない。

- 評価版ツールについては、オープンソースにして、ライセンスを付けて公開するというのか。その場合、公開手順はどのように考えているのか。
  - まず仮公開し、みなさんに試用していただく。実際にツールを使ってもらうことでフィードバックを得ながら修正を行いたいと考えている。
- 文字コード1つを取っても様々なバリエーションがある。それにはどのように対応するのか。ソフトウェア1つで全てに対応するのか、オプションを選ぶようなやり方をするのか、カスタマイズ出来るようにするのか。
- Web でデータ公開する人たちのためのツールであり、国際標準への準拠とか海外からアクセスへの対応などは、仕様を決める段階で議論をする必要がある。オープンデータにすることを前提に、文字コードの議論もされるべきだと思う。
- メタデータの抽出ツールは、URL を入力すれば、指定されたファイルから自動で入力され、メタデータがエクセル形式で出力されるという認識でよいか。
  - 起点となる URL を指定し、そこにあるファイル群から対象となるファイルを指定すると、そのファイルからの抜き出しを行う。
- html ファイルは挙動が様々なので、取扱は慎重に考えた方が良く。また手順としては、先にデータを公開してからメタデータを抽出するのか、予めメタデータを抽出し、対象データとメタデータを同時に公開するのか、自治体のオープンデータ化に向けたワークフローに合わせた使い方を想定した方がよい。
  - 両方式があることは承知しているが、実際には既に公開しているものからメタデータを抽出するという需要が多いようである。
- 小さなツールなので、他のツールと組み合わせてプラグイン的に使われることも想定される。オープンソースとして出せば、いろいろとカスタマイズすることが出来て良いだろう。
- ツールの公開方法を工夫しなければならない。ただ公開されても、どのようなシーンで使えば良いのかわかり難いだろう。自治体がオープンデータを作るときの全体フローの中で、何処に当てはまるのか、ツールの利用例を記すなどのサポートが重要である。
- Web アプリケーションと同様なものと考えられるので、セキュリティ面への配慮も必要となる。悪意をもった使用を避けるため、ツールのコンセプトや想定利用場面等の注意書きを明示して公開する必要がある。
- 文字コードについては、一足飛びに文字情報基盤へ行けるものでもない。ベンダ間で暫定外字コードを作ったりもしているので、柔軟な対応も求められる。
- 例えば Word ファイルのコメントなどもメタデータとして抽出できるのか。現実にはファイルの説明がないため、メタデータの収集が困難なことも多く、オープンデータ作成ガイドなどで、ファイルにディスクリプションを入れることを明記すると良い。
- メタデータ抽出ツールによって出力されるメタデータのファイル形式として csv も含めたほうが良い。
  - 抽出結果をそのまま登録するのではなく、手動で修正することを想定しているので、編集に向けたエクセル形式としている。

- エクセル形式に加えて、csv 形式でも出力できるということで良いのでは。
- csv 形式にはプロパティがないが、ある程度決め打ちで、csv の場合にはこのセルからメタデータを抽出するというような、決め事、前提をおいて、入力として取り扱えるようにしても良い。
- チェックツールの結果のレベルはどう捉えたら良いのか。チェックツールをパスすればオープンデータガイドに準拠したということになるのか。
  - チェックツールを通ったところは OK だが、通らなかつたところでも OK などところもあるかもしれない。判断基準を広くとるか、狭く取るかということだと思う。そういう目でみると、基本的にチェックツールとしては、厳しめに見ていく方がいい。100%のチェックは難しいので、網は広めに掛け、その後人が確認するのが良いだろう。
- 公開手段はどのようなものを想定しているのか。
  - Github などでの公開を想定している。
  - その場合、使い手と想定される自治体や行政の人に届かないのではないか。
  - 自治体が使っていくためには、公開するだけでは不十分などの意見もあると思うので、次年度のテーマ検討として議論することかと思う。

## (2) 次年度テーマの検討

- 前回の議論で、委員会のあり方や VLED の運営など、様々な意見が出た。運営委員会の中村委員長とも話をしたが、各委員会の運営はこれまでと同じように実施するイメージで考えている。来年度の実施テーマも色々出てきているが、内部のバジェットとして足りない部分は、外部の予算を取りに行くことも考えている。これまで議論してきたテーマについては、ある程度、VLED としての希望ということになるが、実際に確保できた予算次第でその中のサブセットをやることになると思う。その前提でこの資料を見て欲しい。
- 資料 3-2 の説明。
- ツール集の作成については、実際のツール開発まではやらないという認識で良いか。
  - 経費を考えると、ツール開発は他のテーマの実施とのトレードオフになる。全体としてはツール集開発は難しいと考える。
- ツール集の作成だが、既に先行したツール集があるので、既存のものとの調整はどのように考えているのか。実装としては、サイトに随時登録していくようなイメージの方が良いのではないか。既存ツール集との相互リンクなども考えて欲しい。
  - 調査の結果として 1 つの PDF が出来るという形ではなく、カタログ集のようなもの、随時更新していき、リンクなども動的にやっていくものになると考えている。
  - 相互リンクだけだとどるのた大変なところもあるので、そこは工夫して欲しい。
- 講習会ではオープンデータガイドをテキストとして使うのか。VLED の外で作ったテキストを使って講習会を実施するのか。その場合には、位置付けが見えづらくなる。
  - オープンデータガイドを基に、講習会テキストを作成することを想定している。

- 来年度は、VLED として既に持っている「データを出す側のガイド」をベースとした講習を自治体を対象として行うことになる。また、ツール集については、社員が製品として持っているツールなどは、蜜に情報を集めて出していった方が良さそう。地方創生という視点の中で、使えるツールなどもこの中に入ってくると思う。
- 国際標準化活動に際し、具体的にターゲットとしている標準化団体はどこか。
  - ITU-T や W3C が主なターゲットであると捉えている。
  - 国際標準化に向けた体制や予算が不十分であるため、積極的に関与するのではなく、従来通り小規模な活動（VLED の活動内容をプロモーションなど）を行うことを想定している。積極的に活動を行うのならば、この場の合意と事前の準備が必要となる。想定先としては、ITU-T よりも Linked Data 系や W3C とかだろう。
- 標準化活動は、社員各社の個別の取組もあるので、VLED での活動とシェアしたり、相乗的に来るのか整理が必要である。VLED 独自で行えないなら、社員各社の活動を整理することになるのか。
- 来年度の活動案について各プレイヤーの役割分担までは分かったが、次はアクションを明確化する必要がある。活動内容の大枠はこれで良いとして、仔細を示したアクションリストを作ることが望ましい。
  - 次回に向けてアクションリストを詰めていくということかと思うが、テーマの設定についてはこの 5 項目で良いか。
- 国際標準化活動で国内の取り組みの紹介とあるが英語版資料作成が大変である。VLED 全体として英語の資料集を整備して頂くと有難い。
- 講習会では、オープンデータを利用イメージも展開できると分りやすくして良い。自治体のオープンデータ利用事例などを集めて展開してもらえると良い。
- タスクリストを出して議論するのであれば、スケジュールを切って、検討のマイルストーンを作成して頂きたい。来年度はマイルストーンに合わせて計画的な運営を望みたい。
- ツール集の作成は、オープンデータガイドと連携し、どんな場面で利用できるのかを示して作成することが重要である。単発にツール集が発表されても効果は薄い。
- 国際標準化活動への参加は、チャンネルをもっている委員の人も活用出来ればと思う。ガイド（活用編）のシナリオの設定では、様々な場面を想定して検討する必要がある。
- シナリオの部分は、利活用・普及委員会も関わってくるかもしれないが、データの API に即したシナリオなどを技術委員会として議論しても良い。気になっているのは、統計データや地理空間情報、書誌情報／文献データなどで、それらの間の連携なども含めて検討できればよい。
- ツールについては、パッケージ化して誰でも使える仕組みとなっていることが重要で、一般の人でも使えるように敷居を低くする必要がある。ツール集としては、カタログよりも、永続的に鮮度を維持することの出来るサイト形式で、データ更新の仕組みを含めて検討して欲しい。
- 企業として個別に国際標準化会合等へ参加している場合、VLED 社員としての立ち位置はどうなるのか。また、データのフレッシュネスへの指摘はその通りだと思う。いろいろなオープンデータを使って、そ

れをビジネスとして行って良いという安心感を与えてくれるような、ビジネス利用を後押しする事例などが出てくると良いと思う。

- VLED として会合の参加を依頼した場合は、VLED としての立場になると思う。どちらの参加費負担でいくのかによる。この辺は各社の関心の高いところだと思うので、いろいろと伺って整理していきたい。
- セキュリティーの観点に基づいた検討も必要である。怪しげなデータにはアクセス出来ないというもあり、安心してデータにアクセスできるお墨付きのようなものも考えられる。
- 国際標準化活動は、コンソーシアム時に検討してきたものと社員が標準化に向けて提言しているものとの整合性を図り、VLED としての方向性を定めるというプロセスが必要。このプロセスを踏まないと、実効性のある活動とならない。まずは、社員から VLED に自社の国際標準化の活動内容を棚卸して頂くことが求められる。
  - 企業などでよく聞くのは、セキュリティ的に Web アクセスとかに制約があるということである。VLED としてフィルタが提供できると良いと思う。
- 国際標準化に本格的に取り組むのであれば、既に各社が既存の活動の中で行っている提案と VLED またはコンソーシアムの作った仕様との整合検討が必要である。さらに各社として VLED 経由で標準化提案するのが合理的なのかという判断が必要となる。その上で WG を組織し、各社の意志も踏まえて活動していく必要がある。このためには前提として各社の現在の活動の棚卸しが必要となる。一方、情報収集程度で行くのであれば、W3C だけで良いのかという検討もあると思う。
- VLED 社員の活動の棚卸自体、来年度の取組になると思われる。棚卸などを含めたアクションプランを作成が必要である。

### (3) その他

- 次回委員会は、3月26日 10:00~12:00、三菱総合研究所 4F 大会議室 B を予定している。
- 

以上